

奈良県

香芝市

文化財
観光

ガイドマップ

KASHIBA Cultural Properties Guide Map



【もくじ】

香芝市の歴史年表	P 3
香芝市マップ全体図	P 4.5
A コース ～飛鳥・白鳳の道～	P 6.7
B コース ～恵心僧都源信から鋳物師の里～	P 8.9
C コース ～二上山麓の道～	P 10.11
D コース ～どんづる峯への道～	P 12
E コース ～明神山への道～	P 13
二上山博物館	P 14.15

【香芝市プロフィール】

位置
本市は、奈良県の北西部にあり、金剛生駒紀泉国定公園を挟んで大阪府に接しています。道路網では大阪市から三重県津市を結ぶ国道165号、和歌山県新宮市から大阪府枚方市を結ぶ国道168号、及び大阪府松原市から名古屋方面にリンクする西名阪自動車道香芝インターチェンジがあり、鉄道網ではJR和歌山線、近鉄大阪線及び近鉄南大阪線が市の中心部を縦横に走り、8つの駅を有し、大阪市内へは約20分という至便なところに位置しています。


市章
香芝の「カシバ」を図案化したもので、円形にまとめたのは和の精神を表し、両横に張り出した翼の形は将来への発展飛躍を表現しています（昭和34年制定）。

人口と世帯数
人口 78,327人
男 37,583人
女 40,744人
世帯数 29,820世帯（平成27年7月末現在）


カッシー紹介

● 誕生
平成13年10月1日に市制10周年を記念して誕生しました。

● おしごと
市のイベント等に現われて盛り上げ役をかっています（ふれあいフェスタ・防犯啓発・岳のぼりなど）。




市の花
誠実という花言葉をもつすみれは、日本古来より野山に咲く身近な花として愛されてきました。「春の野にすみれつみにと 来しわれそ野をなつかしみ 一夜寝にける」山部赤人



年中行事

1月中旬	とんど(各地域)
	初えびす(北今市・戎神社)
26日	結鎮座祭礼(下田・鹿島神社)
4月上旬	御田植祭(五位堂・十二社神社)
23日	岳のぼり
7月 9日	板仏(狐井・福応寺周辺縁日)
10日	こんぴら祭(下田・金比羅社周辺縁日)
	恵心忌大法要(阿日寺・通称ぼつくり寺)
8月	夏祭り(各地域)
	盆踊り(各地域)
	地藏祭り(各地域)
9月 9日	宵宮祭(今泉・志都美神社縁日)
10月中旬	秋祭り(各地域)
11月第一日曜日	香芝ふれあいフェスタ
	子どもフェスティバル
第三土曜日	香芝市教育の日
12月下旬	冬彩(今池親水公園)



【香芝市の歴史年表】

人と自然によって創りだされた香芝の地。原始時代から現代まで繋がる香芝の歴史を年表にまとめてみました。

時代	おもな香芝のできごと	おもな遺跡・文献	おもな日本のできごと		
原始	二上山の噴火(千数百万年前)				
	旧石器 奈良県最古の人類が香芝に現れ、二上山麓で石器の製作が始まる	鶴峯荘第1地点遺跡	日本列島に人類が住み始める		
	縄文 奈良県内最古級の縄文土器がつけられる 香芝に人が定住する	下田東遺跡 狐井遺跡	土器・弓矢の使用が始まる		
	弥生 石剣や石槍などのサヌカイトを使った石器がつけられる	田尻峠第1～3地点遺跡	全国で本格的な米作りが始まる		
	古墳	中国製のよろい副葬される 市内最大の前方後円墳がつけられる	別所城山第2号墳 狐井城山古墳(MAP B-5)	前方後円墳などの古墳がつけられる	
		二上山地域で凝灰岩を使った石棺製作が始まる (奈良県内で唯一確認できた凝灰岩の石切場遺跡)	穴虫・高山石切場遺跡		
白鳳台で登窯がつけられ、須恵器が焼かれる		平野2・3号窯(MAP A-6)			
古代	飛鳥 平野古墳群がつけられ始める 尼寺に日本最大級の塔心礎をもつ寺院がつけられる 穴虫・逢坂付近に「大坂山の関」がおかれる 平野塚穴山古墳がつけられる	平野古墳群	仏教文化の象徴として寺院がつけられる		
		史跡尼寺廃寺跡(MAP A-7)			
		『日本書紀』 平野塚穴山古墳(MAP A-5)			
	奈良	二上山周辺に多くの火葬墓がつけられる	威奈大村骨蔵器(国宝)・高山火葬墓	平城京に都をうつす(710年)	
		初めて金剛砂に関する記載あり(743年)	『続日本紀』		
		葛下郡の人国中連公麻呂が東大寺大仏の造像に関わる(746年) 二上山を詠んだ和歌が『万葉集』に載せられる	『続日本紀』 万葉歌碑(MAP D-1)		
平安	大坂山口神社・志都美神社が記載される	『延喜式』神名帳	平安京に都をうつす(794年)		
	専称寺に市内最古の木造十一面観音菩薩立像がつけられる	専称寺(MAP C-5)			
	宝樹寺の木造阿彌陀三尊像がつけられる 正楽寺に市内最古の石仏がつけられる	宝樹寺(MAP B-1) 正楽寺(MAP A-4)			
中世	鎌倉 念通寺の石造浮彫不動明王立像がつけられる 鹿島神社の氏子の結鎮座行事が始まる 阿日寺の絹本著色阿彌陀聖衆来迎図がつけられる 長谷寺の梵鐘を下田の大工・藤井友頼とその一族が鋳造する	念通寺(MAP A-1)	源頼朝が征夷大将軍となる(1192年) 北条氏が滅び、鎌倉幕府が倒れる(1333年)		
		『鹿島神社結鎮座文書』 阿日寺(MAP B-4)			
	室町	寺の梵鐘などの鋳物づくりが盛んになる	『春日大社文書』 畑城(岡城)(MAP C-4) 志満堂の石仏(MAP C-4)	足利尊氏が室町幕府を開く(1338年)	
		興福寺の荘園として「金剛砂御園」の記載あり(1399年)			
		二上山北麓に岡氏の城が築かれる 香芝最古の銘文入りの石仏がつけられる			
安土桃山	検地帳の写しが瓦口に残る	豊臣秀吉が全国を統一する(1590年)			
近世	江戸 香芝最古の年号入りの道しるべが立てられる 近松門左衛門作『冥途の飛脚』に鎌田の道場(寂照寺)の話あり 五位堂鋳物師、燈籠2基を朝廷に献上する(1794年) 十二社神社の鋳鉄鳥居や燈籠がつけられる(1839年)	関屋 寂照寺	徳川家康が江戸幕府を開く(1603年) 大政奉還(1867年)		
			十二社神社(MAP B-2)		
近代	明治 穴虫出身の安川亀太郎が金剛砂を売り歩き、全国に知られる 金剛砂の採掘が始まる(1886年) 市町村制公布、志都美村・五位堂村・二上村・下田村が成立 王寺～高田間に鉄道が開通し、下田駅(現香芝駅)ができる 金剛砂を原料とする研磨布紙(サンドペーパー)産業がおこる	奈良県となるが、後に堺県に合併される 堺県から大阪府に合併される 大阪府から分かれて奈良県になる(1887年) 大日本帝国憲法が公布される(1889年) 奈良・王寺間に奈良県初の鉄道が開通	第一次世界大戦が始まる(1914年)		
				大正	軍需品用の研磨材として金剛砂が重用され、生産が広がる 日本金剛砂販売組合が設立し、竹田川流域で金剛砂の採掘が進む
現代	昭和 どんづる峯が奈良県の天然記念物に指定される(1951年) 五位堂・志都美・下田・二上村が合併し香芝町が誕生する 平野塚穴山古墳が国指定史跡に指定される(1973年) 香芝町新庁舎(現香芝市庁舎)が完成する(1976年) 金剛砂の採掘が終わる	どんづる峯(MAP D-3)	太平洋戦争が始まる(1941年) 日本国憲法が公布される(1946年)		
		平野塚穴山古墳(MAP A-5)			
	平成 香芝市の誕生(1991年) 尼寺北廃寺が国指定史跡に指定される(2002年)	史跡尼寺廃寺跡(MAP A-7)			

モデルコースと コース外のスポット

しもだがし 下田東遺跡

すみれ野地区からは、おもに縄文時代から室町時代にかけてのさまざまな遺構や遺物が見つかりました。中でも平安時代の井戸からは、稲の品種や種蒔き日、収穫日などが墨書された全国的にも珍しい木簡が見つっています。現在は、二上山博物館で展示されています。



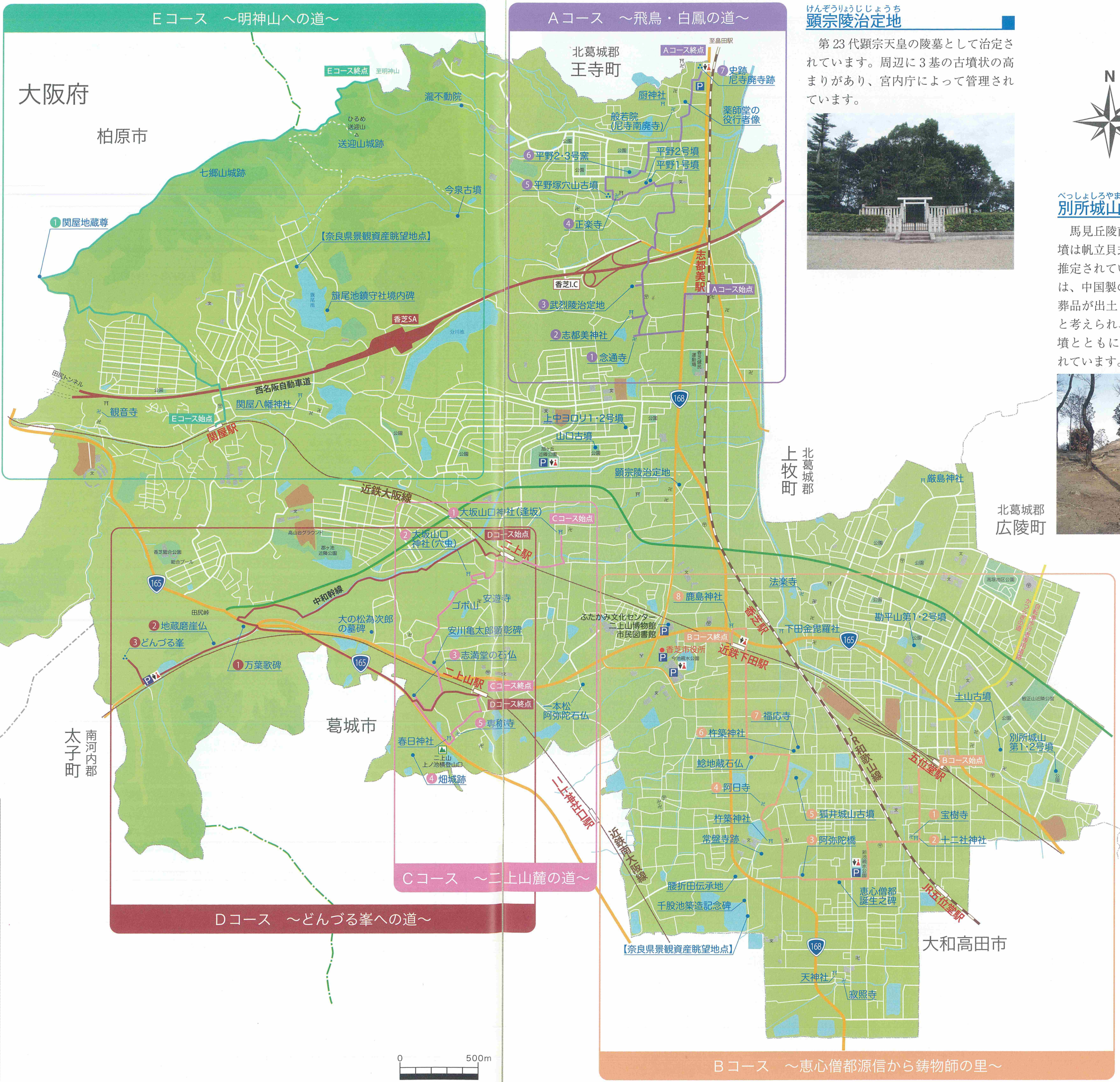
いまいづみ 今泉古墳

平野の集落から西へ約1km離れた山中に位置します。石室は全長6.15mの横穴式石室で、畑安山岩とよばれる石材でつくられています。石室の形状から6世紀中頃の築造と推定されています。市内では石室の大きさを体感できる数少ない古墳です。



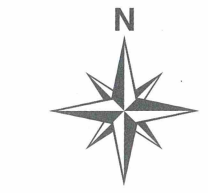
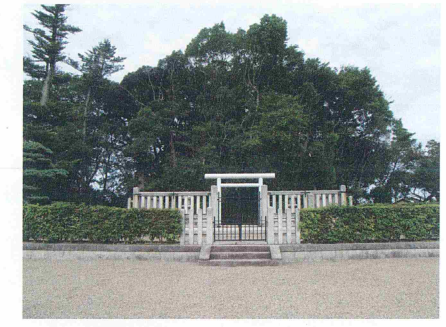
凡例

JR線	
国道	
中和幹線	
かつらぎの道	
近鉄線	
その他の道路	
有料道路	
インターチェンジ	
サービスエリア	
市境	
府県境	
トイレ	
駐車場	
登山口	



けんぞうりょうじじょうち 顕宗陵治定地

第23代顕宗天皇の陵墓として治定されています。周辺に3基の古墳状の高まりがあり、宮内庁によって管理されています。



べっしよしろやま 別所城山1・2号墳

馬見丘陵南端に位置し、北にある1号墳は帆立貝式古墳、南の2号墳は円墳と推定されています。このうち2号墳からは、中国製の札甲や多数の武器などの副葬品が出土しました。4世紀末頃の築造と考えられ、市内最古の古墳です。1号墳とともに城山児童公園東側に保存されています。



Aコース ～飛鳥・白鳳の道～

移動距離
約5km



JR志都美駅	約1.0km	12分	1 念通寺	約0.3km	5分	2 志都美神社	約0.3km	6分	3 武烈陵治定地	約1.2km	15分	4 正楽寺	約0.1km	1分	5 平野塚穴山古墳	約0.3km	5分	6 平野2・3号窯	約1.1km	15分	7 史跡尼寺廃寺跡	約0.7km	10分	JR畠田駅
--------	--------	-----	-------	--------	----	---------	--------	----	----------	--------	-----	-------	--------	----	-----------	--------	----	-----------	--------	-----	-----------	--------	-----	-------

1 念通寺の不動明王石仏

市指定文化財

念通寺境内の不動堂には、不動明王石仏（市指定文化財）と虚空蔵石仏、制多迦童子が祀られています。このうち、不動明王石仏は鎌倉時代初期の作風を残す、県内でも貴重な石仏です。明治時代の神仏分離令により、志都美神社の境内にあった明王院から念通寺に祀られました。

2 志都美神社の社叢

県指定天然記念物

平安時代初期の弘仁4年（813）、藤原鎌足の六世孫、片岡綱利が片岡家の鎮守として祠を建てたのが始まりと伝えられています。本殿は三間社流造の銅板葺で、江戸時代中期の建立と考えられています。元禄年間（1688～1704）に盲目の僧が境内で湧いていた清水で目を洗うと霊験があったという伝承から『大和名所図絵』などには「清水八幡」として紹介されています。本殿の背後に広がる森（社叢）は、貴重な自然が保たれていることから県の天然記念物に指定されています。

3 武烈陵治定地

第25代武烈天皇の陵墓として明治時代に当地に治定されました。墳丘と推定される丘陵には豊かな森が広がっています。

4 正楽寺の線刻阿弥陀石仏

市指定文化財

正楽寺の境内には、線刻阿弥陀石仏（市指定文化財）や地藏石仏が祀られています。このうち、線刻阿弥陀石仏は平安時代後期の様式を残しており、県内で類例の少ない珍しい石仏です。

5 平野塚穴山古墳

国指定史跡

平野の集落には平野1号墳（平野車塚古墳）、平野2号墳、平野3・4号墳（消滅）、平野塚穴山古墳（国指定史跡）など、7世紀代にかけてつくられた古墳があったことが知られています。江戸時代の絵図から平野3号墳は武烈天皇陵、平野塚穴山古墳は顕宗天皇陵として認識されていたこと

がわかります。平野2号墳からは、全長約11mの巨大な横穴式石室がみつき、棺を置くための全国的にも珍しい土製の棺台（市指定文化財）が出土しました。平野塚穴山古墳は二上山の凝灰岩で構築された全長4.5mの横口式石槨で、耳環をはじめ、夾紵棺等の漆塗棺の断片が出土しています。漆塗棺は天皇や皇子級の棺として使用されていることや、平安時代の『延喜式』の記述などから、被葬者は皇極（斉明）天皇や孝徳天皇の父にあたる茅渟王とする説があります。古墳は7世紀中頃から後半の築造と推定され、北東約900mに所在する尼寺廃寺跡の造営時期と重なることから、同じ一族によって造られたと考えられています。

6 平野2・3号窯

市指定文化財

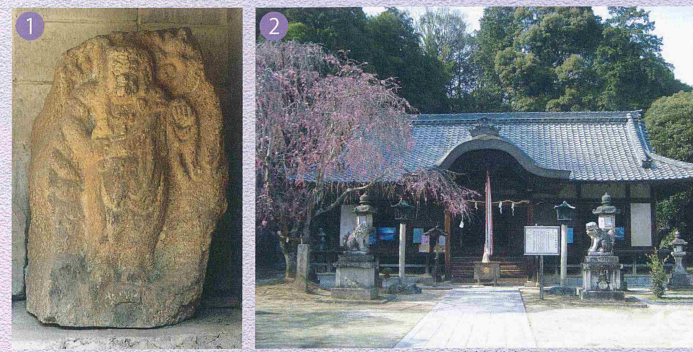
平野古墳群の北側の丘陵には、6～7世紀代の須恵器や瓦を焼成した5基の窯跡がつくられました。これらの窯跡は平野窯跡群と呼ばれ、奈良盆地では最も古い窯跡です。このうち、平野2・3号窯（市指定文化財）は、白鳳台3号児童公園内に保存され、現在では子供たちの遊び場となっています。

7 史跡尼寺廃寺跡（尼寺北廃寺）

国指定史跡

古くから尼寺の集落内では古瓦が表採されることが知られており、北は尼寺北廃寺、南は尼寺南廃寺と呼ばれていました。このうち、尼寺北廃寺は発掘調査によって7世紀後半に造営された、北に金堂、南に塔を配置し、それらを回廊で囲んだ東に中門を設けた、東面する法隆寺式伽藍配置であったことがわかりました。現存するものとしては全国最大の塔心礎とともに、耳環などの舍利荘嚴具（市指定文化財）もみつかりました。周辺には平野古墳群や平野窯跡群もあり、7世紀代の古墳と寺院、窯跡が近接して存在する数少ない地域です。そのため、古代における葛城地域の様相を考える上で重要な寺院として位置づけられています。

※駐車場 25台程度・ガイダンス施設有



不動明王石仏

志都美神社拝殿

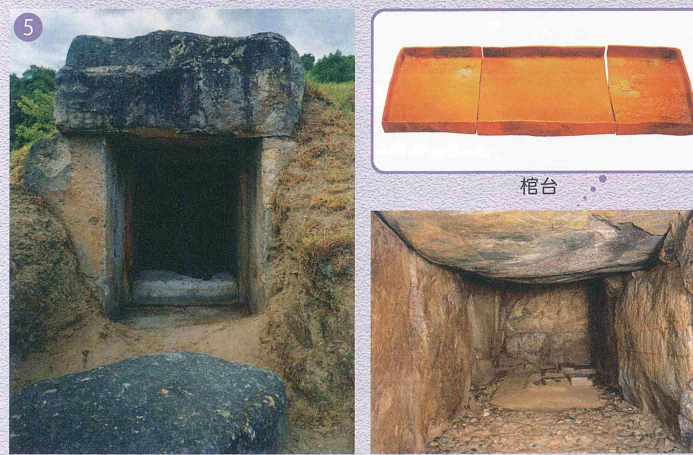


武烈陵治定地



線刻阿弥陀石仏

地藏石仏



平野塚穴山古墳

平野2号墳(石室)



平野2・3号窯

舍利荘嚴具



史跡尼寺廃寺跡塔跡(整備後・北から)



史跡尼寺廃寺跡塔跡(発掘調査時・南から)

Bコース ～恵心僧都源信から鋳物師の里～

移動距離
約4.5km

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|--------|-----|-------|--------|----|---------|--------|-----|----------|--------|-----|-------|--------|----|----------|--------|----|--------|--------|----|-------|--------|-----|--------|--------|----|-------|
| 近鉄五位堂駅 | 約0.7km | 10分 | 1 宝樹寺 | 約0.1km | 2分 | 2 十二社神社 | 約1.0km | 15分 | 3 阿弥陀橋石棺 | 約0.7km | 10分 | 4 阿日寺 | 約0.4km | 5分 | 5 狐井城山古墳 | 約0.2km | 3分 | 6 杵築神社 | 約0.1km | 2分 | 7 福応寺 | 約1.2km | 16分 | 8 鹿島神社 | 約0.1km | 2分 | 近鉄下田駅 |
|--------|--------|-----|-------|--------|----|---------|--------|-----|----------|--------|-----|-------|--------|----|----------|--------|----|--------|--------|----|-------|--------|-----|--------|--------|----|-------|



1 宝樹寺の本尊

市指定文化財

明治24年(1891)に作成された『寺院明細帳』によると、宝樹寺の建立は天平宝字8年(764)に鑑真の招請に尽くした大安寺の僧普照国師とされています。本尊の木造阿弥陀如来坐像(市指定文化財)は平安時代後期、脇侍立像(市指定文化財)は平安時代末頃の様式を伝える市内最古の阿弥陀三尊像です。

2 十二社神社の奉納品

市指定文化財

下田や五位堂の地域は、中世から江戸時代にかけて鋳物産業が栄えた地として知られています。境内には、燈籠4基(市指定文化財)や全国的にも珍しい鋳鉄鳥居1基(市指定文化財)が鋳物師から奉納されています。鋳物師の主な製品は、鍋や鋏、梵鐘などで、これらの製品は戦時中の供出によって少なくなっており、現存する製品は、かつて栄えた鋳物産業を知る上で貴重な資料となっています。

3 阿弥陀橋の石棺

市指定文化財

初田川にかかる小さな橋(阿弥陀橋)のたもとには、石棺材など(市指定文化財)があります。兵庫県の竜山石とよばれる凝灰岩でつくられ、本来は古墳におさめられていた長持形石棺の蓋石と石室の天井石と推測されています。幼年期の源信が自ら阿弥陀の像を刻み、橋の下に流して魚類を救済したという伝承から阿弥陀橋の名があります。

4 阿日寺の本尊と客仏

国指定重要文化財

良福寺は平安時代中期の高僧恵心僧都源信(942～1017)が誕生した地とされ、阿日寺は、そのゆかりの寺院として伝えられています。毎年7月10日には恵心忌という法要が営まれ、無病長寿、安楽往生の「ぼっくりさん」としても広く親しまれています。寺宝には絹本著色阿弥陀聖衆来迎図(国指定重要文化財)がありますが、現在は奈良国立博物館に保管されています。客仏には近くの常盤寺(廃寺)本尊であった平安時代中期の木造大日如来坐像(国指定重要文化財)が祀られています。

5 狐井城山古墳

市指定文化財

全長約140mの市内最大の前方後円墳です。古墳の周囲を巡る濠や堤の発掘調査から、5世紀末から6世紀初頭につくられたと考えられています。付近の水路から、竜山石製の家形石棺や長持形石棺の蓋石(市指定文化財)が見つかっています。このうち長持形石棺は、本来は狐井城山古墳におさめられていた可能性があります。これらの石棺は、ふたかみ文化センター(二上山博物館)前庭に移設して展示しています。

6 杵築神社の力石

狐井の集落には、戦前、村の若者が力試しに用いたという「かたげ石(力石)」が残されています。力石は、米俵より重いことが多く、杵築神社の力石も米俵の倍以上の重さがあります。当時は、鍛錬と娯楽をかねて盛んに行われていたようです。

7 福応寺の「板仏」

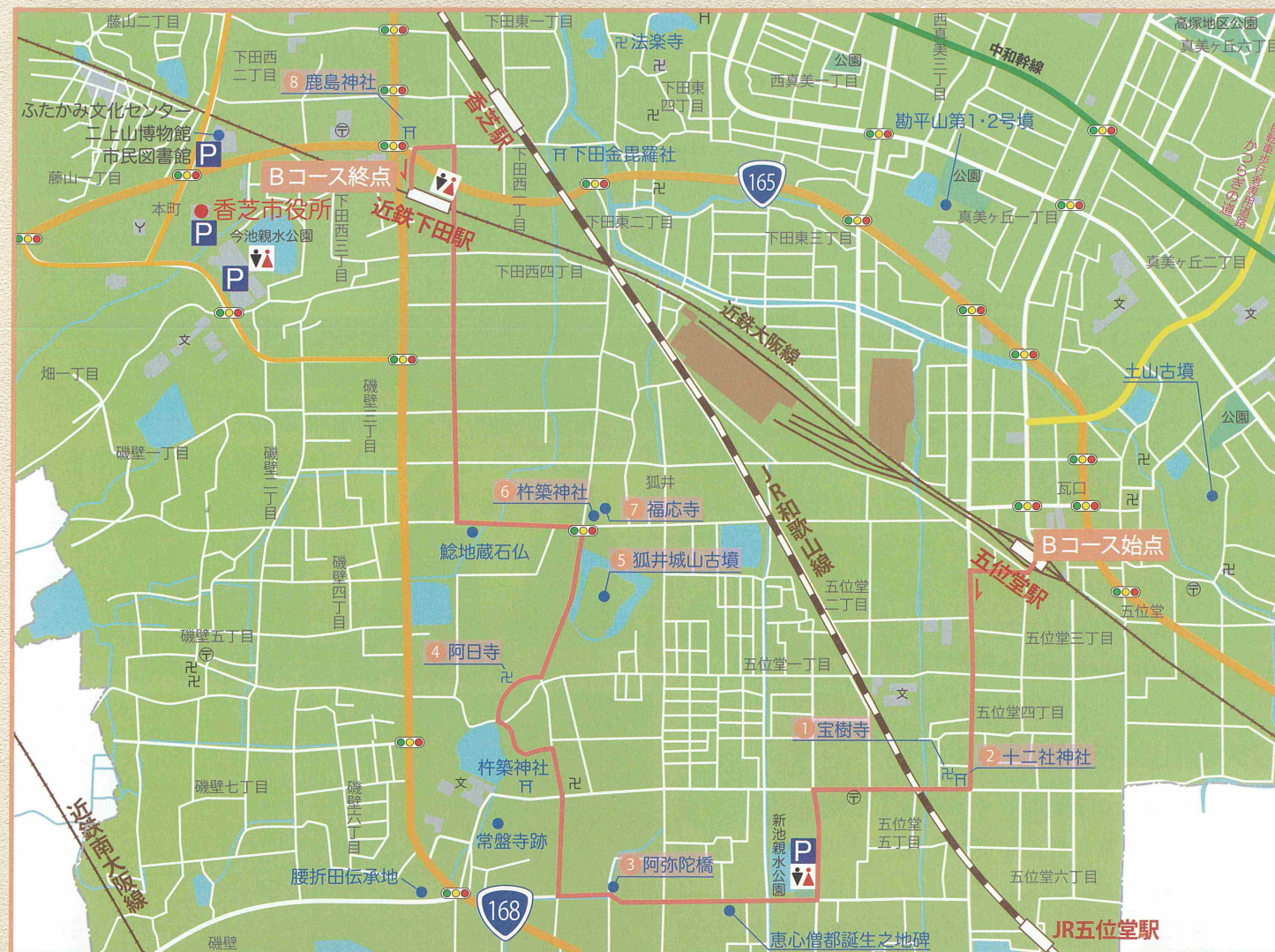
市指定文化財

本尊は板地紙貼彩色の阿弥陀三尊来迎図(市指定文化財)で、通称「板仏」と呼ばれています。画面は、板に薄い紙を貼り合せ、その上に彩色したもので、室町時代から江戸時代の作品と推測されています。恵心僧都源信作との伝聞が、明治時代の『寺院明細帳』に記してあります。秘仏ですが、毎年特別に源信が筆をとったとされる7月9日のみ公開されています。

8 鹿島神社の渡御行事

市指定天然記念物

鹿島神社では、毎年1月26日に結鎮座と呼ばれる氏子で組織される集団(宮座)によって、渡御行事(市指定文化財)が行われています。宮座の記録が書かれた『鹿島神社結鎮座文書』(県指定文化財)によると、鎌倉時代初期に始まったことがわかります。現行の行事は規模が縮小されているものの、中世に成立した宮座の祭礼行事の様相を残しています。境内には、江戸時代中期の石燈籠や北東隅の児童公園入口にはエノキの巨樹(市指定天然記念物)があります。



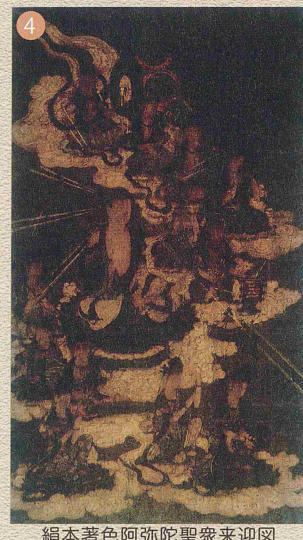
木造阿弥陀如来坐像及び両脇侍立像



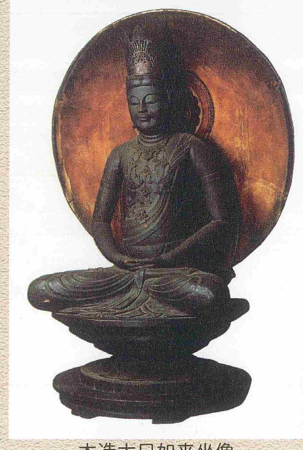
鋳鉄鳥居



阿弥陀橋の石棺



絹本著色阿弥陀聖衆来迎図



木造大日如来坐像



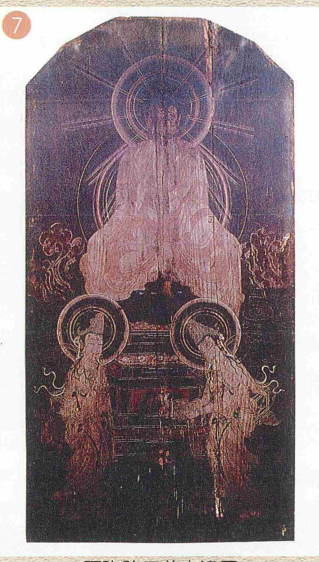
狐井城山古墳



杵築神社の力石



鹿島神社拝殿



阿弥陀三尊来迎図

Cコース ～二上山麓の道～

移動距離
約4.3km



近鉄大阪線 二上山駅	約0.5km 8分	① 大坂山口神社(逢坂)	約0.8km 12分	② 大坂山口神社(穴虫)	約1.2km 20分	③ 志満堂	約1.0km 15分	④ 畑城(岡城)	約0.3km 5分	⑤ 専称寺	約0.5km 6分	近鉄大阪線 二上山駅
---------------	--------------	--------------	---------------	--------------	---------------	-------	---------------	----------	--------------	-------	--------------	---------------

① 大坂山口神社(逢坂)の本殿 県指定文化財

大坂山口神社は、逢坂と穴虫の2ヶ所に所在し、ともに式内社と称しています。逢坂の大坂山口神社は、本殿(県指定文化財)が三間社流造の檜皮葺でつくられています。寛永15年(1638)の棟札(県指定文化財)から、この時期の建立とされていますが、一部には室町時代の建築様式も残っています。神宝の神像や狛犬・宮座文書等は一括して市の指定文化財に指定され、二上山博物館で不定期に公開しています。

② 大坂山口神社(穴虫)

穴虫の大坂山口神社は、相撲神社として知られています。境内には、宮相撲の観覧席を残し、「馬場組」と書かれた記念碑がたてられています。この馬場組を牽引したのが、大の松為次郎(吉田栄蔵)という明治時代に活躍した穴虫出身の力士です。為次郎は大坂山口神社(穴虫)で引退興行を行っており、晩年は穴虫に相撲部屋をつくり、後進の育成にあたりました。

③ 志満堂の石仏

近鉄南大阪線二上山駅から西へ600m、志満堂とよばれる堂の中に祀られています。上部に柄が残っていることから、本来は笠石が乗っていたと考えられます。石仏には「寛正三年」(1462)と刻まれており、市内最古の銘文入りの石仏です。

④ 畑城(岡城)

大ジョーゴ山(大將軍山)にあり、中世の香芝南西部を拠点とした岡氏の城跡と推測されています。平時の居館跡は、発掘調査や「土井ノモト」などの地名から近鉄大阪線二上山駅の南側に広がる岡氏居館跡遺跡が推定されています。

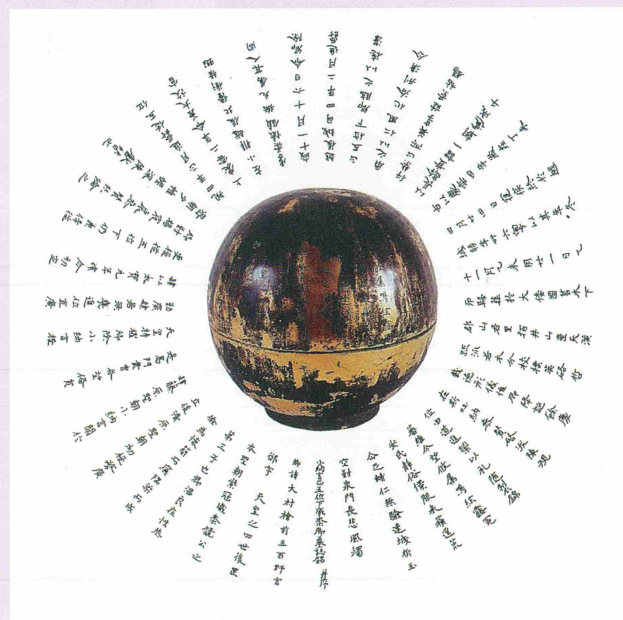
⑤ 専称寺の本尊 市指定文化財

専称寺には、市内最古の木造十一面観音菩薩立像(市指定文化財)や木造阿弥陀如来立像(市指定文化財)が祀られています。境内には、県の保護樹木にも指定されている「しだれ桜」があり、春になると美しく境内を彩ります。

穴虫は国宝発見の地!

江戸時代の明和年間(1764～1771年)に穴虫で骨蔵器がみつかりました。正確な出土地点はわからないものの、ゴボ山がその発見地と推定されています。発見当時は、大甕を伏せた下に金銅製の骨蔵器があり、その中に火葬骨を納めた円形の漆器が入っていたと伝えられています。現存するのは国宝に指定されている金銅製の骨蔵器のみです。大きさは総高24.2cm、直径24.4cmで、蓋の部分には慶雲4年(707)の年号を含む391文字が刻銘されています。その銘文から威奈大村という人物の墓誌であることがわかりました。墓誌の書き出しや使用語句、書風などから中国文化に精通した人物が墓誌の製作に関わったと考えられています。

二上山博物館で精巧な複製品を常設展示しています。



威奈大村骨蔵器墓誌銘



大坂山口神社(逢坂)



本殿



神像(女神坐像・男神坐像)



大坂山口神社(穴虫)



本殿



「馬場組」記念碑



志満堂の石仏



畑城入口(二上山登山口)



木造十一面観音菩薩立像

しだれ桜



Dコース ~どんづる峯への道~

移動距離
約6.2km

近鉄二上駅	約2.1km	1 万葉歌碑	約0.5km	2 地蔵磨崖仏	約1.0km	3 どんづる峯	約2.6km	二上山駅 近鉄南大阪線
	▶ 30分		▶ 8分		▶ 10分		▶ 40分	



1 万葉歌碑

国道165号線沿いにあります。『万葉集』には、「大坂をわが越え来れば二上に黄葉流る時雨降りつつ」と詠まれています（『万葉集』巻10-2185）。

2 地蔵磨崖仏

磨崖仏の左右には天文17年（1548）や「玉祐逆修」などの銘文が刻まれており、玉祐という僧が逆修供養のために造立したことがわかります。また、磨崖仏の前面にある石碑には、「天和三年 釈栄西 亥十二月五日」と刻まれており、天和3年（1683）に建てられた栄西という僧の墓所が付近にあったと推測されています。



万葉歌碑 地蔵磨崖仏

3 どんづる峯

県指定天然記念物

千数百万年前に二上山の火山活動によって火砕流や火山灰などが堆積し、その後の地殻変動によって隆起し、さらに、長い年月の間に侵食されて現在の姿になりました。古くは古墳の石棺材や寺院の基壇などの石材として利用されました。遠くから見ると鶴が屯しているような奇観のため、この名称で呼ばれるようになりました。

※駐車場5台程度・トイレ有



どんづる峯



Eコース ~明神山への道~

移動距離
約4.5km

近鉄関屋駅	約2.0km	1 関屋地蔵尊	約2.5km	明神山へ
	▶ 30分		▶ 90分	



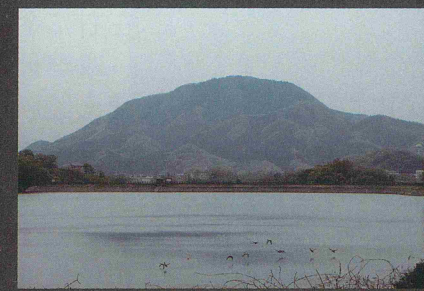
1 関屋地蔵尊

大阪府との府県境、王寺町の明神山へ向かう分岐点に地藏石仏を祀る小堂があります。初瀬に住む人々が、峠の交通安全のため奉納されたと伝えられています。現在は日を限って祈願すると願いが叶えられる日切地藏として信仰されています。山中にありながら、常に供花・供物があり、地域で大切に守り信仰されていることがわかります。



関屋地蔵尊

コース外のおすすめスポット



旗尾池から二上山を望む



MUSEUM/二上山博物館

Kashiba City Nijyousan Museum

■二上山と3つの石 よみがえる旧石器時代

二上山誕生

奈良盆地の北西部、奈良県と大阪府が境を接するあたりに位置する二上山。左右に金剛・葛城山系と信貴・生駒山系をしたがえ、四季折々、季節のうつろいの中でその優美な姿を変えていきます。古くは『万葉集』に詠まれ、万葉の「ふたかみやま」として古代史の舞台ともなりました。

しかし、それよりはるか昔…

今から千数百万年前、二上山は大噴火した火山というのが真の姿なのです。その活発な火山活動によって多くの火成岩が分布していますが、なかでもサヌカイト・凝灰岩・金剛砂はその後の人類文化の発展に大きく寄与した岩石、鉱物です。

二上山は美しい山容によって人々に深い感銘を与えてきただけでなく、人々の暮らしのなかで深いかわりをもってきたのです。

二上山博物館は、この3つの石と人々の暮らしをテーマに、歴史的風土と自然の特徴を親しみやすく、視覚にうったえた博物館です。

●旧石器時代～弥生時代

石器の材料として 大活躍のサヌカイト

二上山北麓には、数万年前の後期旧石器時代から約2000年前の弥生時代に至るサヌカイト製石器の原産地遺跡群が存在します。

サヌカイトは安山岩の一種で、1891年にドイツ人のワインシュェンク(E.Weinschenk)が香川県の旧国名「讃岐国」にちなんで名づけられました。

サヌカイトはガラス質で、打ち欠くと二枚貝の貝殻状に割れて縁に鋭利な刃ができるため、ナイフ形石器などの原材料としてさかんに利用されました。

現在、二上山麓において後期旧石器時代の遺跡は70カ所以上知られています。香芝市では1981年から継続的に発掘調査を実施しており、鶴峯荘第1地点遺跡や桜ヶ丘第1地点遺跡など、近畿地方の旧石器時代を代表する遺跡が所在し、瀬戸内技法や国府石器群を研究する上で、第一級の資料を蓄積しています。

展示室では、各地のサヌカイト原石や標本、二上山の旧石器や九州から北海道まで、全国の旧石器時代を代表する遺跡から出土した石器を紹介しています。

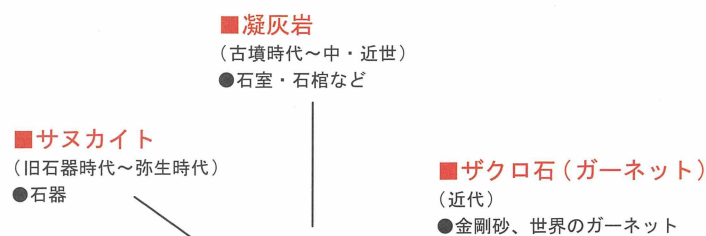
●古墳時代～中世

時の権力をささえた 二上山の凝灰岩

凝灰岩は、火山噴出物が地上や水中に堆積してできた岩石です。県指定天然記念物「どんづる峯」は、二上山の火砕流堆積物が水の影響を受けて形成された地質・地形として知られています。

凝灰岩は古墳時代から切り出され、6世紀の藤ノ木古墳(斑鳩町)の家形石棺や7世紀の高松塚古墳・キトラ古墳(明日香村)の石室(石槨)などに使われました。飛鳥・奈良時代には、寺院や宮殿などの礎石や基壇の化粧石に、平安時代から中世にかけては、おもに五輪塔や石仏、宝塔などの石造物に利用されました。

屋外展示では、刳拔式長持形石棺蓋石(市指定)・家形石棺片・長持形石棺蓋石(復元)、展示室では一部復元された家形石棺を紹介しています。また、穴虫石切場遺跡や高山石切場遺跡など、凝灰岩の石棺を切り出した石切場遺跡の関連資料を展示しています。



二上山の生成 (二上山と3つの石)

●奈良時代～現代

サンドペーパーの材料(研磨材) 地場産業の金剛砂

金剛砂(ざくろ石、ガーネット)は、非常に硬い鉱物のため研磨材として用いられ、明治時代から地場産業として発展してきました。市内を流れる竹田川沿いの地域では、地下数メートルの砂礫土の中に含まれています。昭和50年代半ばまでは、冬場に水田を露天掘りして採掘されていました。

金剛砂は『続日本紀』に「大坂沙」で玉石を磨いたという記述があります。また、平安時代の『西宮記』には御所の敷き砂に用いたことや、室町時代の『春日大社文書』には興福寺の荘園として大和国葛下郡に「金剛砂御園」があったことがわかります。

明治時代には、後に金剛砂王と呼ばれた安川亀太郎氏の尽力で、金剛砂産業発展の道筋がつけられました。展示室では、金剛砂産業の歩みや日本のほか世界各地のガーネットの原石などを紹介しています。

●旧石器時代～弥生時代

■前期旧石器時代(約30万年前ごろ)のゾウ狩り



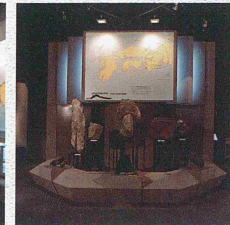
■穴虫石切場遺跡(消滅)



■二上山と日本の旧石器



■これがサヌカイトだ



■サヌカイト



■歴史の世界へといざなう年表

経過時間を等分した年表で、実際の歴史的時間を知ることができます。



●奈良時代～現代

■金剛砂と人々との暮らし



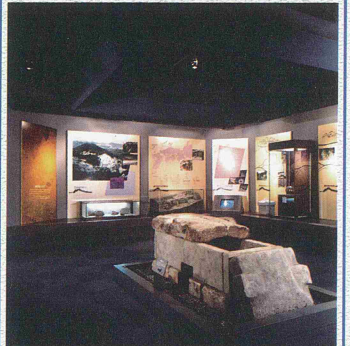
■二上山Q&A

モグ君、モグちゃんといっしょにクイズの冒険に出発しよう!



●古墳時代～中世

■二上山の凝灰岩と古代



■金剛砂



香芝市二上山博物館
〒639-0243 香芝市藤山一丁目17番17号
tel. 0745-77-1700 fax.0745-77-1601

URL <http://www.city.kashiba.lg.jp/life/shisetsu/hakubutsukan/>

- 開館時間/午前9時～午後5時
- 休館日/月曜日(祝日・振休の場合は開館し、翌日以降の平日が休館)、年末年始(12月28日～1月4日)
- 駐車場/無料(普通車80台) ★満車の場合は、市役所南側駐車場を利用ください。
- 入館料/大人…200円(150円)、学生…150円(100円)、小人100円(50円) *()内は団体割引料金(20名以上) 身体障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳・療育手帳所持者と介護者1名は無料。





二上山の夕焼け

【自動車でお越しの場合】



【JR・近鉄電車でお越しの場合】

